

寺町廃寺跡の発掘調査成果

三次市教育委員会
主任主事 藤川 翔

1 はじめに

寺町廃寺跡（てらまちはいじ）は、中国地方を代表する古代の地方寺院跡として、昭和 59（1984）年に国史跡に指定された三次市を代表する遺跡のひとつである。日本最古の仏教説話集、『日本霊異記』所載の「三谷寺」に比定されることでもよく知られ、三次市教育委員会では 8 次にわたって発掘調査を実施してきた。今回はその成果をご紹介します。

2 三次市（みよし）の文化財と寺町廃寺跡

(1) 三次市の文化財

指定文化財 … 242 件（内訳：国 12 件，県 61 件，市 169 件）[R4.6 時点]

史 跡：浄楽寺七ツ塚古墳群，花園遺跡，矢谷古墳，陣山墳墓群，**寺町廃寺跡**

※ **国史跡**：候補となる埋蔵文化財（遺跡）：約 46 万件のうち，その数は 0.4%。



地理的特徴＝中国地方の中央部に位置。古くから交通・交易の要衝地として発展

(2) 寺町廃寺跡の位置と環境

ア 所在地：広島県三次市向江田町 2666 他

イ 周辺の環境：三次盆地の東側，馬洗川と国兼川に挟まれた丘陵地の中央に位置。

⇒ 寺町廃寺跡の周囲は古墳群が多く，三次地域でも特異。創建の背景との関係。

(3) 遺跡の概要と関連遺跡

【遺跡の概要】 … 飛鳥～平安時代まで存続したとされる古代の地方寺院跡

→『芸藩通志』巻 113・114 には，その存在が記載。

江戸時代後期から，寺院跡の存在が認識されてきたとわかる。

【関連遺跡】 … 寺町廃寺跡の他にも，関係する古代の遺跡が立地。

① **太当瓦窯跡**（だいとうがよう）

三次市和知町大字大鳴に所在。寺町廃寺跡に瓦を供給した窯跡 [付足指定]

② **上山手廃寺跡**（かみやまてはいじ）

三次市向江田町上山手に所在。奈良時代前期の寺院跡

3 『日本霊異記』と寺町廃寺跡

- 最古の仏教説話集 『日本霊異記』(にほんりょういき) とは？

〔正式名〕：『日本国現報善悪霊異記』(にほんこくげんぼうぜんあくりょういき)

〔編纂者〕：薬師寺(奈良県)僧, 景戒(けいかい)

『日本霊異記』上巻7縁 - 備後国三谷郡の寺院, 「三谷寺」-

亀の命を贖ひ生を放ちて現報を得亀に助けらるる縁 第七

禪師弘濟は、百済国の人なり。百済の乱の時に当りて、備後国三谷郡の大領の先祖、百済を救はむが為に軍旅に遣さるる時に、誓願を發して言さく「もし平に還来らば、諸の神祇の為に伽藍を造立て多諸くの寺を起らむ」とまうす。

遂に災難を免れ、すなはち禪師を請へて相共に還来り三谷寺を造る。其の禪師の伽藍と諸の寺とを造立てたる所以なり。道俗觀て、共に為に欽敬ふ。禪師尊き像を造らむが為に、京に上り財を売る。既に金と丹との等き物を買得て、難破の津に還到る。時に海の辺の人大なる亀四口を売る。禪師人に勤へて買ひて放たしむ。すなはち人の舟を借り、童子二人を将て共に乗りて海を渡る。日晩れ夜深けて舟人欲を起し、備前の骨嶋の辺に行到りて、童子等を取りて海の中に擲入る。然うして後に禪師に告げて云はく「速に海に入るべし」といふ。師教化ふといへども賊なほ許さず。茲に願を發して海の中に入る。水腰に及ぶ時に石を以ちて脚に当つ。其の曉に見れば、亀負へり。其の備中の浦にして、海の辺に其の亀、三顧きて去る。是れ放てる亀の恩を報ゆるかと疑ふ。

時に賊等六人、其の寺に金と丹とを売る。檀越まづ量るに価を過ゆ。禪師後に出でて見れば、賊等忙然しくして退進を知らず。禪師憐愍びて刑罰を加へず。仏を造り塔を嚴り、供養し已りぬ。後に海の辺に住みて往き来る人を化ふ。春秋八十有余のとしに卒ぬ。畜生すらなほ恩を忘れず、返りて恩を報ゆ。何にいはむや、人にして恩を忘れむや。

(出雲路修 1996『日本霊異記』新日本古典文学大系 30 岩波書店 を一部改変して引用)

- ① 備後国三谷郡(現在の三次市南部)の郡司大領の先祖が白村江の戦いに参戦
- ② 終戦後、百済(くだら)僧 弘濟(ぐさい)を連れて帰還し「三谷寺」建立
- ③ 仏像の材料を買った帰り道、弘濟が海辺で助けた亀の報恩で難を逃れた話



百済僧 弘濟が建立した「三谷寺」 = 寺町廃寺跡 ではないか

4 寺町廃寺跡における発掘調査の歩み

- 第1～4次発掘調査

… 昭和 54～57 (1979～1982) 年：遺跡の内容確認を目的とした緊急調査を実施。



昭和 59 年 (1984) 5 月 25 日：国史跡に指定

- 第5～8次発掘調査

… 平成 30～令和 2 (2018～2020) 年：史跡整備に伴う内容確認調査を実施

4 寺町廃寺跡における発掘調査の成果

(1) 遺 構 [第1図]

● 金 堂 跡 (こんどう) = 仏像が安置される重要な建物跡。

【基 壇】(きだん)

規 模 : 東西 15.74 m × 南北 13.40 m, 現存高 0.6~0.8 m (推定高 1.8 m)

外 装 : 基壇周囲の下部に, 1 段の塼 (せん) を立て並べる。

⇒ 寺町廃寺跡で確認された基壇外装は, 現状では日本唯一の発見例。

【階 段】…基壇の南北に階段跡を発見。

南階段 : 東西幅 2.59m, 奥行 (現存) 0.7m, 現存高 0.6m

北階段 : 東西幅 2.62m, 奥行 2.0m, 現存高 0.5m (推定高 1.62m)

【燈 籠】(とうろう) …東西中軸線上, 基壇南縁から約 5.1m の場所で確認。

規 模 : 据付掘方 東西 1.05m × 南北 0.89m, 柱径 0.49m, 深さ 0.6m

材 質 : 周囲で石材は確認できず。木製の可能性 (上原 2020)。

⇒ 仮にも木製の燈籠遺構であれば, 全国4例目で日本最古級。

● 塔 跡 (と う) = 寺院のシンボル。経典や仏舎利を奉納。

【基 壇】(きだん)

規 模 : 東西 11.14m × 南北 11.14m, 現存高 0.6~0.8m (推定高 1.35m)

外 装 : 基壇周囲の下部に, 1 段の塼 (せん) を立て並べる。(金堂と同じ状況)

【階 段】…南階段は削平。北階段を確認。

北階段 : 東西幅 2.3m, 奥行 1.95m, 現存高 0.6m (推定高 1.05m)

● 講 堂 跡 (こうどう) = 僧侶が勉強する建物。

【基 壇】(きだん)

規 模 : 東西 25.10m × 南北 14.70m, 現存高 0.6m (推定高 0.6m)

外 装 : 基壇周囲の下部に, 1 段の塼 (せん) を立て並べる。(金堂・塔と同じ状況)

【階 段】…基壇南面の3箇所南階段を確認

中央階段 : 東西幅 3.8m, 奥行 0.9m, 現存高 0.45m (推定高 0.45m)

東階段 : 東西幅 2.0m, 奥行 0.9m, 現存高 0.35m (推定高 0.45m)

西階段 : 東西幅 2.0m, 奥行 0.9m, 現存高 0.30m (推定高 0.45m)

● 回 廊 跡 (かいろう)

東面・西面・北面を確認。南面は削平。東西幅 4.2~4.4m の単廊。

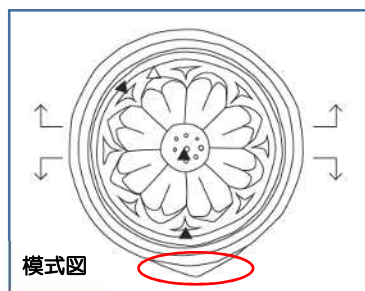
構 造 : 外側に「犬走り」, 内側に「雨落ち溝」が廻る。

⇒ 北(南)面西回廊の東西長 > 北(南)面東回廊の東西長 (約1間: 2.3m 分長い)

寺町廃寺跡の伽藍配置 = 法起寺式伽藍配置

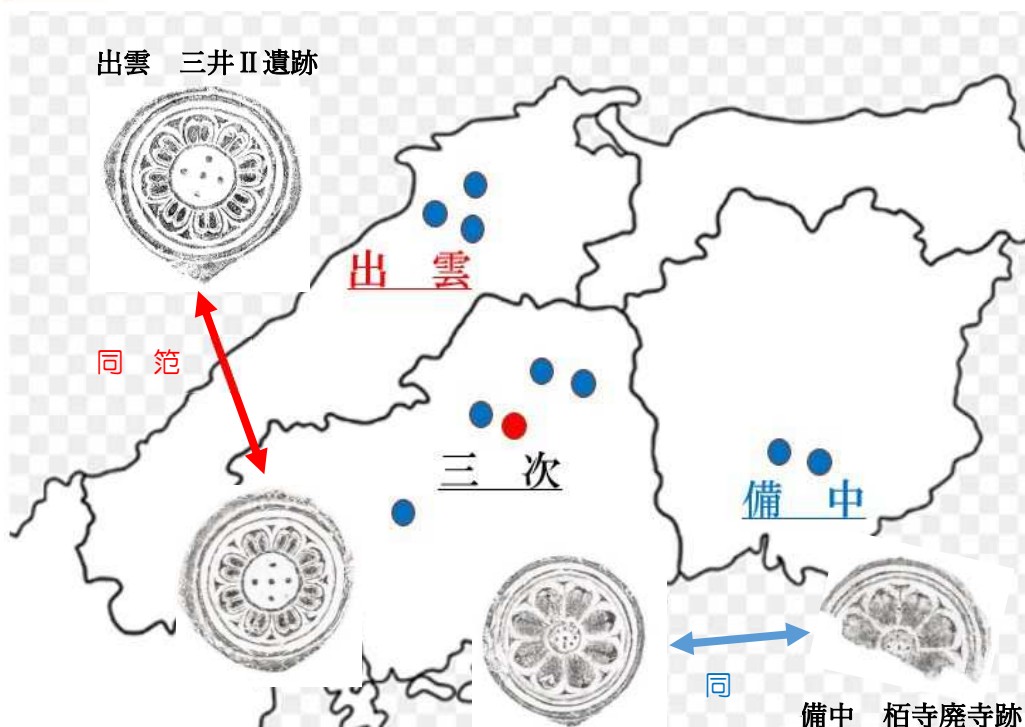
(2) 遺 物

- 軒丸瓦 … 瓦当部下端が三角形状に尖る「水切り瓦」(松下 1969・1993) (妹尾 1991)



赤丸の部分 : 三角形状に尖っている。[第 2 図]

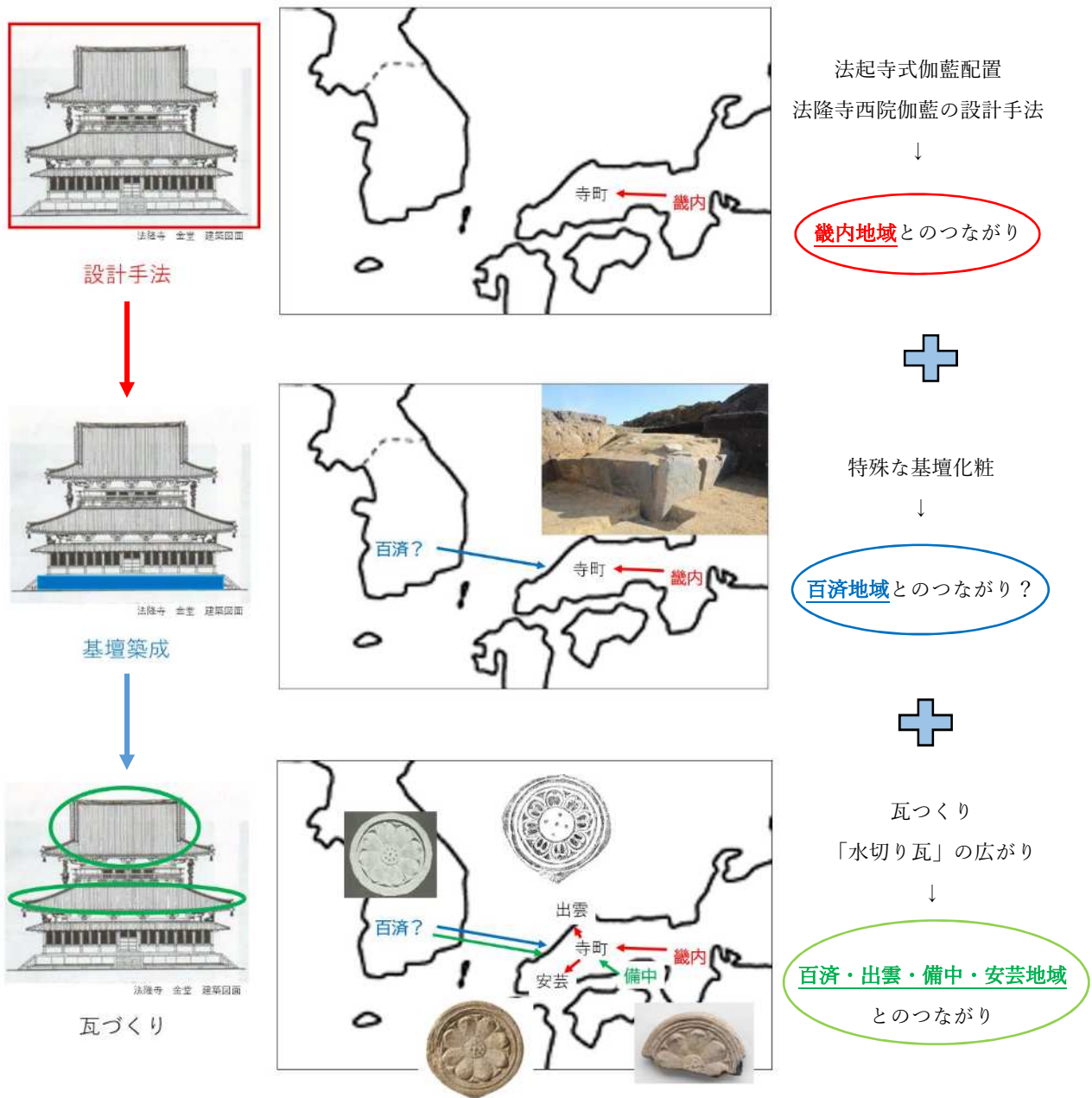
↓
頂点で水が切れる = 「^{みずき} ^{がわら} 水切り瓦」



水切り瓦の分布 : 寺町廃寺跡を中心として各地で確認

- 丸瓦 … 99%以上が行基丸瓦。全長 38cm, 厚さ 3 cm, 凸面格子叩き目が主体。
- 平瓦 … 95%が粘土板桶巻作り。粘土紐桶巻作り・一枚作りが 5 %。
- 塼 … 基壇外装の塼も含めて総計 250 点以上。全国有数の出土量を誇る。
- 須恵器・土師器 … 8～9 世紀代の出土量が多い。7 世紀後半のものもある。
- 唐三彩 … 器種は長頸壺。表面の釉薬にまともり、盛唐期と判断。
→ 長頸壺の出土は、日本国内では福岡県沖ノ島遺跡でしか確認例がない。
唐自体であり生産されず、地方寺院跡での出土例は極めて特殊。

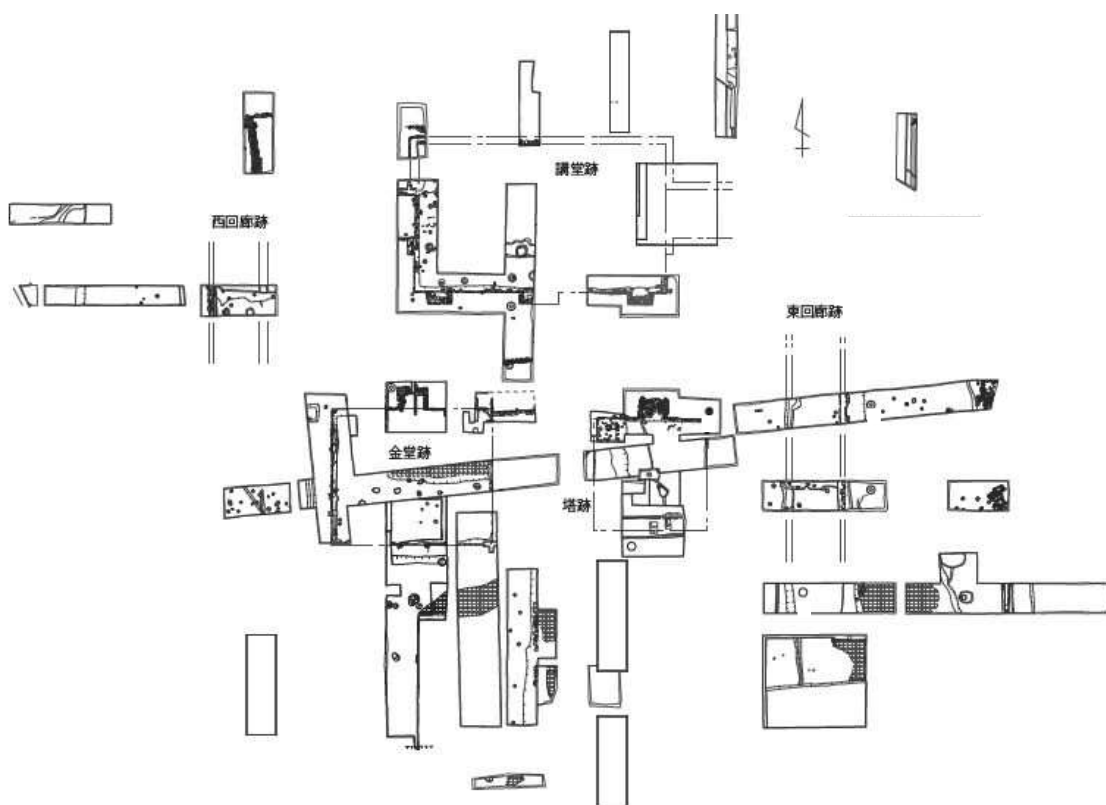
5 おわりに ～「お寺づくり」からみた、寺町廃寺跡の特徴～



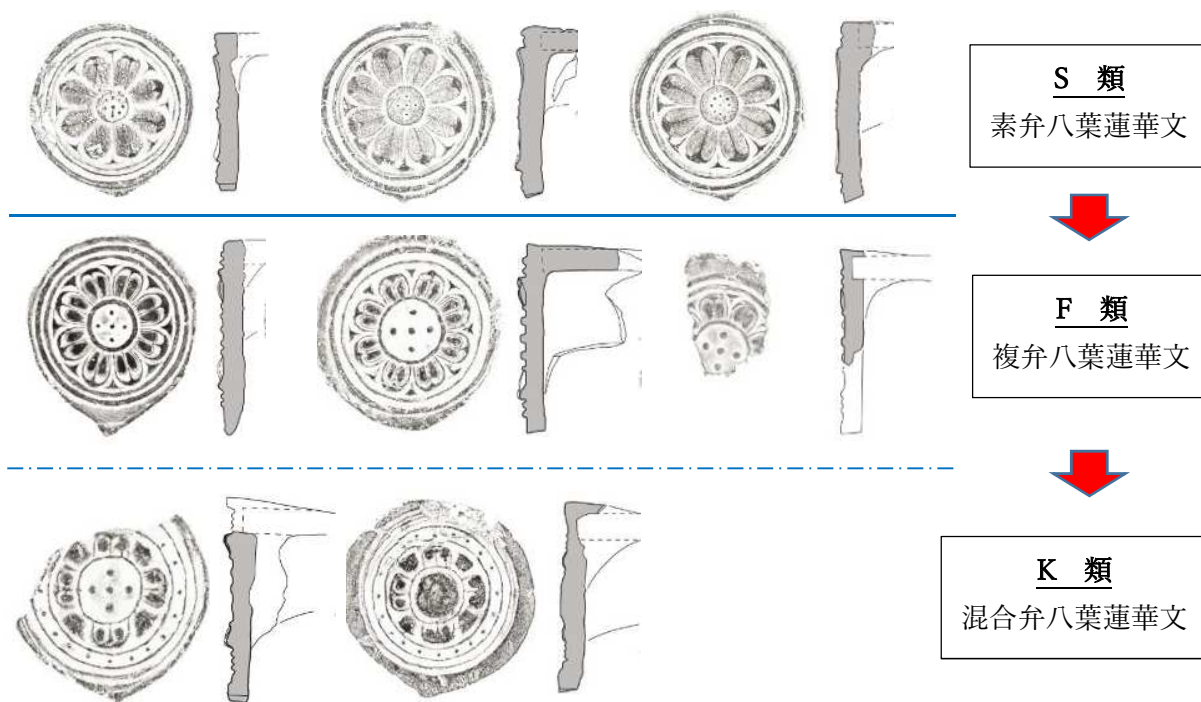
寺町廃寺跡の造営時と造営後には、「地域間のつながり」が捉えられる

<参考・引用文献>

- 出雲路修 校註 1996『日本霊異記』新日本古典文学大系 30, 岩波書店
 上原真人 2020「寺院資財帳の考古学」『季刊考古学』第 152 号, 雄山閣
 妹尾周三 1991「安芸・備後の古瓦（その 1）-素弁から複弁へ-（造寺活動と寺町廃寺式瓦の提唱）」『古文化談叢』第 26 集,
 三次市教育委員会編 2022『史跡寺町廃寺跡-推定三谷寺跡第 1～8 次発掘調査総括報告書-』, 三次市教育委員会
 松下正司 1969「備後北部の古瓦-いわゆる「水切り瓦」の様相-」『考古学雑誌』55・1, 日本考古学会
 松下正司 1993「水切り瓦再考」『考古学論集-潮見浩先生退官記念論集-』潮見浩先生退官記念事業会
 三舟隆之 2016「第 2 章『日本霊異記』地域関係説話形成の背景-備後国を中心として」『『日本霊異記』説話の地域史的研究』, 法蔵館
 毛利光俊彦 2002「M 埴・土管ほか」『山田寺発掘調査報告-本文編-』創立 50 周年記念奈良文化財研究所第 63 冊



第1図 寺町廃寺跡 遺構検出図 【※スケールは任意】



第2図 軒丸瓦各型式の瓦当拓本と瓦当文様模式図 【S=1/6】